



基礎を意識して生活する6月

5月22日(金)のグリンピースのさやむきでは、グリンピースの皮を押すと「ポンッ」という音がすることに感激しながら、丁寧にむくことができました。また、2年生がさやむきをしたグリンピースは、全学年の給食に出て、大喜びしながら美味しくいただきました。

5月30日(土)の運動会は、これまでの頑張りが十分に発揮され、充実したものとなりました。教室に戻ってから、子どもたちの「楽しかった!」の声と晴れやかな顔が輝いていました。様々な面でご協力を賜りました。ありがとうございました。

6月は、運動会の疲れが出るとともに、新しい学級に慣れてきて、授業中に集中が途切れてしまったり、友達同士のトラブルが起こりやすくなったりする時期です。体が疲れると、心に余裕がなくなり、ちょっとしたことが許せないということが起こります。学校では、活動にゆとりをもって取り組めるよう計画を立て、大勢で学校生活を送るために必要となるルールについて確認をするなどして、学校生活の基礎を意識して生活できるよう指導してまいります。ご家庭では、引き続き「早寝・早起き・朝ごはん」を意識して、心身ともに健康で穏やかな気持ちで過ごせるよう、ご協力をお願いいたします。

【お知らせとお願い】

Ⅰ 水泳指導について

- ①6月15日の週から水泳指導を開始します。目、耳、鼻の病気等については、水泳指導期間が始まる前に必ず受診をお願いします。
- ②実施予定日には、プールカードに日付・体温の記入と押印(保護者印。サインも可)を忘れずをお願いします。記入漏れや押印の忘れがあっても、学校からご家庭に確認の連絡はせず、見学となります。
- ③絆創膏を付けている場合、絆創膏を付けていなくても出血や浸出液が出ている場合は、見学となりますので、お子さんが怪我をしている場合は、傷の状態をよく観察してください。キズパワーパッド等防水の絆創膏であっても、付けている場合は見学です。
- ④一人でラップタオルを巻いて、タオルの中で着替えができるようにご家庭で練習をしておいてください。3分程度で着替えられるようにしておいてください。昨年度の様子を見ていると、下着を脱いでから水着を着る、水着の前後や裏表を正しく着るといったことも確認が必要です。帽子やゴーグルも自分で着脱できるようにしてください。髪の毛はすべて帽子の中に入れます。

【持ち物】

プールバッグ、水着、水泳帽子、ラップタオル(ボタン付きのバスタオル)、ゴーグル、ビーチサンダル、取っ手付きのビニール袋(ラップタオルと水筒を入れてプールサイドのフックに掛けて使います)
※すべての物に記名をしてください。特に黒いゴーグルを持たせる場合の記名は工夫をしてください。
※ラッシュガードを着用しても構いません。ファスナー可。フード、紐は不可。シンプルなものにしてください。

【指導予定日】

1組、2組・・・月曜日3・4校時
3組、4組・・・木曜日5・6校時

2 集団下校について

6月22日(月)は6校時に集団下校避難訓練をします。コース別に集団下校をする方法について学習します。下校は14時40分以降となります。学童と放課 Go は通常通り利用できます。お子さんが当日、どこに下校するかを分かっている状態で登校させてください。雨天決行です。

3 体力テストのアンケートについて

体力テストのアンケートにご回答ください。後日、QR コードの書かれたお知らせを配布します。質問の内容は昨年度と同様です。詳細は、後日配布するお知らせをご覧ください。

4 PTA 会費について

6月の引き落としはありません。詳細は、後日、学校からお知らせします。

5 図工教材について

「ひかりのプレゼント」の学習では、共通教材を学校で購入して取り組みます。お子さんが、教材に加えて、もっと作品を作りたい場合は、透明の卵パックや透明のクリアファイルを持たせてください。透明度の高いものの方が、光を通してきれいに見えます。必須ではありません。

6月8日の週に使用予定です。

6 その他

お子さんは、学校での出来事をお話されていますでしょうか。お子さんが学校での出来事をお話した時には、まずお話を最後まで聞いてみてください。幼児教育の専門家から「子どもは、3回気持ちを受け止めてもらうと“聞いてもらった”“分かってもらった”と感じるものです」と聞いたことがあります。子どもが「〇〇が嫌だった」と言ったら、「〇〇されたんだね」「嫌だったんだね」「〇〇されて嫌だったんだね」というように、大人が3回復唱してあげるとのことだそうです。大人からすると、「そういう場合は・・・」とついアドバイスをしたくなりますが、子どもの一番の気持ちは、大人と同じように「聞いてほしい」「分かってくほしい」ということが多々あるものです。学校でも子どもたちからの言葉を聞いて、それに対して大人の価値観で決めつけることなく、事実を確認し、気持ちに寄り添った上で、子ども自身はどうしたらよいか、教師にどうしてほしいかを聞くようにしています。「〇〇されて嫌だった」という場合でも、よくよく話を聞くと、「自分にもよくないところがあった」と気付いたり、「相手に謝ってほしい」「相手にも自分の気持ちを分かってくほしい」「先生から注意してほしい」「先生が聞いてくれたから、それでいい」と言ったり、その時々で子どもたちの気持ちは様々です。ご家庭でも、どうしたいかやどうしてほしいかをお子さんに聞いてみてください。学校と家庭とが一緒にお子さんの健やかな成長のために協力していきたいと思えます。ご心配なことや気になることがございましたら、ご連絡ください。